

Title	彙報 : 昭和五十一年六月より昭和五十二年五月まで
Author(s)	
Citation	東方學報 (1978), 50: 525-531
Issue Date	1978-02-28
URL	<a href="https://doi.org/10.14989/66545">https://doi.org/10.14989/66545</a>
Right	
Type	Article
Textversion	publisher

# 彙報

昭和五二年六月より  
昭和五二年五月まで

## 研究状況

### 班研究

#### 東 方 部

##### 先秦時代文物の研究

班長 林 巳奈夫

引きつづき『周禮』の會讀を進め、醴人から夏采までを、池田、杉本、曾布川、江村、林、川又、相川、田中が擔當して天官を讀み終えた。ついで地官大司徒に入り、池田が擔當した。

なお、四月に入ってから、林班長が歐洲出張のため、『周禮』の會讀は一時休み、以下のごとく新出土先秦文物についての紹介にあてている。

四月一五日 秦咸陽宮第一號遺址について

田中 淡

五月一三日 汪寧生論文「八卦起源」について

上山 春平

劉雲友の馬王堆「五星占」に關する論文について

吉田 光邦

五月二七日 中國古代の鐵について

秋山 進午

##### 漢書の研究

班長 梅原 郁

『漢書』のうちでもとくにその部分を中心として會讀譯注を行なってきた。そのうち「食貨志」「溝洫志」「律曆志」および「郊祀志」の譯を終

り、その注を作成しつつあると同時に、班員の永田英正によって「食貨志」本文の校勘記が作られた。また「律曆志」の譯は川勝義雄と橋本敬造によって公刊された。現在は「五行志」の中巻まで讀みすすんでいる。

##### 中國中世の文化と社會

班長 川勝 義雄

五世紀から八世紀に至る中國の社會において、宗教的精神がさまざまな文化現象の根底に横たわっていることに注視して、昨年度にひきつづき、唐の道宣編『廣弘明集』を讀み進んできた。現在卷二八「啓福篇」の會讀を續けつつ、同卷に含まれる六朝・隋代の願文・勅令の譯注を完成しつつある。

なお、比較思想的觀點からの研究として、左記の發表が行なわれた。

五一年六月三〇日 中國出土のササン朝貨幣

桑山 正道

五一年十一月十七日 譚峭の「化書」に見える哲學と技術

H・シュタインガール

五二年五月十八日 後期インド佛教思想とチベット宗義文獻

御牧 克己

##### 博物志の研究

班長 山田 慶兒

收集した佚文をもふくめて『博物志』の譯注をおえ、五二年三月をもって研究を終了した。研究報告『輯本博物志の研究』は、五二年度中に原稿

の整理をおえて、出版にまでこぎつけたと考えている。

なお、「科學者列傳の研究」の報告『中國の科學と科學者』はほぼ原稿の執筆を終っており、五二年度中には出版できる目通しである。

##### 新發現科學史資料の研究

班長 山田 慶兒

五二年度から五年間にわたって、中國において新たに發見・發掘された科學技術史の資料をとりあげてゆく。

あらためていうまでもなく、最近、中國の考古學はめざましい成果を收め、おびただしい文獻や遺物がつぎつぎに出土している。そのなかには、馬王堆や武威の漢墓から發見された醫書をはじめ、これまでの空白を埋めたり、あるいは、從來の定説をくつがえしたりするであろう多くの貴重な科學技術史關係の資料がふくまれている。そうした發見はかならずしも考古學の分野、あるいは古代史の分野だけにかぎらない。『農書』の著者、元の王禎の著作四點が發見されたのが、その一例である。文獻と遺物とを問わず、時代と分野とを問わず、そうした新發現の資料をとりあげていく。

昨年の秋から準備の意味で武威の醫簡の會讀をすすめてきたが、譯注をおえたので、赤堀昭氏による報告を今年度の『東方學報』に掲載する。現在にはひきつづき馬王堆出土の醫書を讀みすすめている。成果は逐次、『東方學報』に發表していく豫定である。

##### 晚唐文學

班長 荒井 健

本研究では晚唐の詩人、李商隱を對象としてとりあげた。底本には唐詩百名家全集本を用い、『文苑英華』等を校勘の資料とし、七絶および七

律の會讀を進めている。五〇年四月の研究班發足以來、現在「霜月」以下七絶二十五篇、「天平公座中呈令狐令公」以下十一篇を一應讀了した。

朱子語類の研究

班長 山田 慶兒

過去五年にわたる朱子研究班は、朱子語類研究班に發展的に解消し、目下、班員各氏による論文準備と並行して、讀了分の譯注を所内班員各位の協力を得て進めつつある。卷一(理氣)、卷二(天文地理)、卷三(鬼神)はすでに完了し、近く出版する豫定である。

近世中國の歴史地理學的研究

班長 日比野丈夫

「天下郡國利病書の研究」は、昭和五〇年三月末に一段落ついたものとして、その後は研究成果の整理と班員各自の論文作成に従事し、報告書として出版する準備を進めてきた。併せて四月から表記新題目のもとに、宋代より清代にいたる一貫した歴史地理學的諸事象をとりあげ、若干の結論に到達したが、班長日比野が停年退職したので、できるだけ近い將來にまとめる豫定である。

明清社會の變革に關する研究

班長 小野 和子

この研究は、明清時代における社會變革を、政治・社會・經濟・思想・文化の各方面より考察しようとするものである。研究班編成初年度の活動として、以下のことをおこなった。

- (1) 明清社會全般を見渡すための、各班員の各専門分野から研究報告(月一回)。
- (2) 『皇明經世文編』(永樂〜嘉靖初期)の選讀・注作成。
- (3) 『雍正硃批諭旨』資料整理。

本年度もひきつづき、(1)(2)(3)をあわせおこない、學說整理もまじえて、問題點を次第にしぼってゆく。

清代經學の研究

班長 尾崎雄二郎

顧炎武『日知錄』三十二卷本の會讀をつづけて易の半ばを越えた。非常勤講師には、引きつづいて福本雅一氏をお願いしている。

五四運動研究

班長 狹間 直樹

當研究班は、五二年度を以て五年の期限をおえる。「新青年」の會讀によって、當時の時代的雰圍氣を把握することからはじめた五四運動研究も、この四年の間に數多くの新資料を發掘し、基本的文獻を整理して、いよいよ論文執筆段階にはいった。したがって、今年度は、從來の研究成果を系統的にまとめる作業と研究發表が主體となった。研究發表では、「渾代英の理想主義」「帝國主義の中國支配と關稅問題」「中國における女工哀史」「五四時期の婦人問題」「浙江新潮をめぐる論争」「曹汝霖の免職と錢能訓の辭職をめぐって」「北京大學と蔡元培」のほか、「全國經濟委員會」「五卅事件の上海」「福田徳三の反資本的帝國主義」など多様な問題がとりあげられた。研究成果のまとめは、「胡適に關して」「五四前後の團體結社」「權力側の態度」「李大釗に關して」「五四運動評價」についてなされた。

そのほか、「新青年」を止揚した雑誌として、『嚮導』の紹介にも數週間を費し、書評には

“Papers Relating to the Foreign Relations of the United States”, J. Chen “Yuan Shih-k'ai, 狹間直樹『中國社會主義の黎明』をとりあげた。現代中國の政治過程と民衆の意識

班長 竹内 實

本研究會は、昭和五一年四月から、A班B班の研究を交互におこなうこととした。A班は現代中國における一般的な問題をあつかひ、B班は毛澤東に關する研究を中心とする。研究報告は次のとおり。

六月八日 毛澤東文獻の資料檢討 全員

六月二十二日 毛澤東文獻の資料檢討 全員

七月六日 萩野脩二、坂井東洋男、竹内 實

七月十三日 毛澤東文獻の研究報告 深澤一幸、北村 稔

十月十二日 國營農場について 佐々木信彰

メキシコ會議の印象 河田 悌一

臺灣の印象 竹内 實

十月二十六日 初期毛澤東の思想のまとめ 全員

十一月十六日 黃埔軍官學校について 竹内 實

五二年

一月二十五日 現状分析 全員

四月二十六日 中國の社會主義論 ― “十大關係を論ず”をめぐって― 矢吹 晋

五月十日 毛澤東第五卷の問題點 全員

日本部

日本における市民文化の形成(文明開化の研究) 班長 林屋辰三郎  
本研究班も三期七年と定めた研究計畫の最終年度に入り、文明開化の研究を整理する段階に入

いつている。九月より報告書作成の準備に入り、明年頭には原稿を集め、今年度中に出版にかかりたいと考えている。なお第二報告書となる『幕末文化の研究』は昭和五十二年中刊行をめざして校正が進行中である。

#### 日中戦争期の政治と社會

班長 古屋 哲夫

この研究班は昭和五年四月より發足し、「滿洲事變」以降、日中戦争の全面的擴大、太平洋戦争へいたる時期を對象として、總力戰體制の形成、その對内外政策、社會、思想狀況、民衆動員の展開などを総合的に明らかにすることを目的としている。なお、本年四月、井上清教授の定年退官により、古屋哲夫教授が班長をひきついだ。

#### 日本帝國主義の朝鮮支配

班長 飯沼 二郎

この研究班は昭和五年四月より發足し、おもに一九一〇年朝鮮併合以降の日本帝國主義の朝鮮にたいする植民地支配の形成と實態、およびそれに對する朝鮮民衆の民族解放の闘争の過程を諸側面から究明しようとしている。

#### 社會運動の研究

班長 渡部 徹

昭和四八年四月からの、主として兩大戦間の内外の社會運動の實態分析を繼續し、五一年度より三九年で成果をまとめる豫定。

#### 家族問題の研究

班長 太田 武男

この研究は、夫婦・親子・相續などをめぐる諸問題に關する理論的・實證的研究を、その主たる目的ないし内容とする。従來、この方面の研究は、それぞれの専門分野において個別的に行なわれていたが、今回の研究は、法律學的な觀點からの考察を中心としつつも、それに社會人類學的な觀點からの考察なども加えて、総合的に行なわ

んとする點において特徴的である。昭和四一年四月より毎週一回研究会を開いて、主として夫婦問題、なかでもとくに「離婚問題」について研究をすすめ、その成果は『現代の離婚問題』（有斐閣）として世に送り、また、昭和四四年四月からは、主として親子問題を中心に研究を進め、その成果は、『現代の親子問題』（有斐閣）として世に送った。そして、昭和五〇年四月より第三期に入り、現代の相續問題、なかでも遺言制度ないし遺言をめぐる諸問題についての総合的な研究を行なっている。

#### 西洋部

一九三〇年代のヨーロッパ 班長 河野 健二

過去一年の研究において従來の三〇年代論がいかに皮相的かつ公式主義的であったかが多くの報告によって明らかにされてきた。人民戦線しかり、三〇年代知識人しかり、ナチズムしかり。この批判的作業から抽出された諸問題を具體的な事象研究をつうじて分析、解明し、新しい三〇年代像構築のための基礎固めをおこなうのがこれからの研究課題となる。

#### 前近代社會における社會動態

班長 會田 雄次

前近代社會をすべて、傳統的、固定的ないし停滞的のみならず、視角をとらず、社會内に存在した流動性をできうるかぎり抽出するための努力が、この研究会で續けられている。従來までの社會移動論、社會變動論が理論的に再検討されているほかに、さまざまなケース・スタディがとりあげられている。たとえば、前近代中國では、官

僚層への他社會層からの流入が豫想以上に目立つことが指摘された。また社會層的な動態だけでなく、手工業者、藝人たちの遍歴、巡禮者の移動などによる横斷的な變動の問題も討議されている。

#### 人文學の方法

班長 上山 春平

五一年四月より發足した人文學の方法にかんする研究班は、まず、人文諸學の共通の母胎ともいべき歴史にかんする方法論の検討から着手し、最近では、人文學の位置づけを明らかにする目的で、學問分類論を系統的に取りあげている。これまで取りあげてきた主要な分類論は、ベイコン、ドランボール、コント、ヘーゲル、パース等である。

#### ポードレール・惡の花 註釋

班長 多田道太郎

ジャンヌ・デュヴァル詩篇および禁斷詩篇の「寶石」「忘却の河」を読み終え、註釋原稿の相互検討をまもなく完了する。

#### 社會編成の比較人類學的研究

班長 谷 泰

社會人類學は、これまで、出自集團とか親族といった基礎的な集團を「構造」として研究してきた。社會構造は理論的な分析概念としても、また經驗的に把握することのできる實在的なものとしても、多義的に用いられてきた。しかし、最近になって、研究が多面的に發展してくるに従い、基礎集團を「構造」として把握する立場の限界が明らかになってきた。本研究班は、新たに、社會的諸集團が個人や小集團を軸として、發生的にどのようにならされていくのかを追求する。個人間の對面行動や近接行動などが、社會關係行動を編成してゆく過程を、いくつかの異なる文化の事例を

とりあげて比較し、社會的諸集團の編成原理を導き出すことによつて、社會人類學の古典的課題に新しい光を投げかけることを目指す。  
人類學における方法論の研究

班長 谷 泰

現在人類學の方法はきわめて多岐にわたつて多樣化の状況にあるが、本研究班は、これらの諸方法を自覺的にとらえ直し、新しく用いられるようになった生態人類學、エスノサイエンス、言語分析等の方法の現實への適用可能性、有効性と限界の検討をおこなつて來た。

ところでその検討過程を通じて、言表化された表現行動と言表化されないレベルでの認知との關係をどのように處理するかという方法上の問題が、今回はとくに議論された。またメタフォリックな表象をどのように取扱うかという問題もとりあげられた。

ところで本研究班は五二年三月をもつて終了し、全員執筆段階に入り、四月からは、「生活様式と關係行動」というテーマで新たな研究班が組織された。この新班については、次回に詳しく報告する。

### 個人研究

#### 東方部

- 貴族制社會とその文化
- 毛澤東の思想
- 中國音韻史の研究
- 殷周文物の考古學的研究
- 禪宗文獻の研究

- 川勝 義雄
- 竹内 實
- 尾崎雄二郎
- 林 巳奈夫
- 柳田 聖山

#### 西洋部

- 日本近代社會の研究
- 世界資本主義の構造
- ヨーロッパ15・16世紀の社會と思想
- 人文科學の方法

- 河野 健二
- 會田 雄次
- 上山 春平

### 事業概況

- 夏期講座 「原典を読む」
- 於 分館講堂
- 副島 圓照
- 五月一日 下關係約

- 中國の詩學
- 宋代の開封と臨安
- 宋代の科學と技術
- 六朝隋唐精神史
- 隋唐社會史研究
- 中國中世土地所有制の研究
- 五四運動の研究
- 中國近代婦人解放史
- 白氏文集語彙索引の編集
- 唐宋繪畫史の研究
- 中國歴史地理學に向けて
- 中國建築の様式・技法・空間
- 初期新民主主義革命史の研究
- 日本部
- 變革期における歴史と文化
- 日本勞働運動史
- 家族法の研究
- 横井時敬の研究
- 日本技術史の研究
- 日本ファシズムの研究
- 日本近代文化史の研究
- 廢藩置縣の研究
- 寛永文化の研究
- 日本帝國主義の研究
- 文化史および文明史としての國民國家の形成
- 荒井 健
- 梅原 郁
- 山田 慶兒
- 吉川 忠夫
- 磯波 護
- 勝村 哲也
- 狭間 直樹
- 小野 和子
- 今井 清
- 曾布川 寛
- 秋山 元秀
- 田中 淡
- 森 時彦
- 林屋辰三郎
- 渡部 徹
- 太田 武男
- 飯沼 二郎
- 吉田 光邦
- 古屋 哲夫
- 飛鳥井雅道
- 佐々木 克
- 熊倉 功夫
- 副島 圓照
- 横山 俊夫
- 園田 英弘
- ボードレールの「脱出」について
- 宗教改革と政治・社會
- ルソーの政治思想について
- 西洋論理想史
- 人間關係行動の比較分析
- フランス社會主義思想の研究
- モデル理論とその應用
- シュメール都市の比較類型論的研究
- 一八世紀フランス ユートピア文學の研究
- サンシモン主義の理論と實踐
- 東方部研究會
- 五月一年
- 五月一日 郭忠恕鞞川圖卷について
- 五月一九日 明末の一都市改革と民變
- 六月二日 初唐壁畫古墳にみえる建築
- 五月二五日 劉向の學問と思想
- フランス勤工儉學運動小史
- 現代中國の歴史性
- 多田道太郎
- 中村賢二郎
- 樋口 謹一
- 山下 正男
- 谷 泰
- 阪上 孝
- 内井 惣七
- 前川 和也
- 松田 清
- 見市 雅俊
- 曾布川 寛
- 夫馬 進
- 田中 淡
- 池田 秀三
- 森 時彦
- 竹内 實

北一輝「國體論及純正社會主義」

二日 「禮記」學記篇

「徐霞客遊記」

三日 シュメールの「ことわざ」から

「ポール・ロワイヤル論理學」

山下 正男

開所記念公開講演會

五一年一月一三日

「人材」論

夢窓と一休

分館講堂

園田 英弘

柳田 聖山

定年退官記念講演會

五一年二月二八日

日本帝國主義について

わが中國歴史地理

於 樂友會館

井上 清

日比野丈夫

その他の講演會

五一年

九月二一日

パリ第一大學教授

「西洋における氏族制」

九月二七日

パリ社會科學高等研究院長

ジャック・ルゴフ氏

「中世社會のマンタリテについて」

一〇月五日

日ソ經濟學シンポジウム「多國籍企業について」

出席者 科學アカデミー經濟研究所長

カプステイン氏

同世界經濟國際關係研究所教授

同アメリカ・カナダ研究所教授

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

同世界經濟國際關係研究所博士

シヨルジュ・デュブー氏

昭和五一年度漢籍擔當職員講習會

文部省學術局情報圖書館課と本所附屬東洋學文

獻センターとの共催による第三回講習會は、五月

三一日から六月六日まで、左の如く行なわれた。

五月三一日 開會にあたって

漢籍整理について

尾崎雄二郎

カードのつくりかた「A」

小國 健一

六月一日 經部書

史部書

六月二日 子部書

集部書・叢書

六月三日 カードのつくりかた「B」

梅村智恵子

南禪寺見學

六月四日 カードのつくりかた「C」

櫻井 景雄

中國の書物

今井 清

六月五日 討議および情報交換

川勝 義雄

閉會にあたって

林屋辰三郎

革命と平等主義をめぐって

一八世紀と一九世紀

パリ大學教授 アルベール・ソブール氏

五月二七日

フランスにおける政治的傳統

一兩極化か中央派結集か

ボルドー第三大學教授

○荒井 健(東方部)・多田道太郎(西洋部)兩

助教授は教授に昇任(五一年六月一日付)。

○濱田正美氏を助手(東方部)に採用(八月一日

付)。

○井上 清(日本部)・日比野丈夫(東方部)兩

所員動靜

教授は停年退官。

○吉田光邦（日本部）助教は教授に昇任。

○狹間直樹氏を助教（東方部）に採用。

○田中峰雄氏を助手（西洋部）に採用。

○三浦國雄助手は東北大學助教（教養部）に出向（以上五二年四月一日付）。

○佐々木 克氏を助教（日本部）に採用（五月一日付）。

○深澤一幸氏を助手（東方部）に採用（五月一日付）。

○吉田光邦助教は、六月三日羽田發、メキシコのオズバック市で第七回世界クラフト會議に出席、ロサンゼルスの人類學博物館で資料蒐集を終え、同月一六日歸國。

○井上 清教授は、本年一月より北京大學で日本近・現代史に關する講義を終え、七月一三日歸國。

○熊倉功夫助手は、七月二日伊丹發、韓國の晉州・慶州・釜山・京城市内等で日韓合同茶業調査を終え、同月三〇日歸國。

○竹内實教授は、八月七日伊丹發、臺北の政治大學國際關係研究中心圖書館で中國現代史に關する研究を終え、同月一六日歸國。

○横山俊夫助手は、九月一日羽田發、ライデン・ミュンヘン・パリ各大學・ナポリ東洋學院で資料蒐集、オックスフォード大學で一九世紀の日英史研究中。五二年八月末、歸國豫定。

○前川和也助手は、九月二日羽田發、シカゴ・ペンシルバニア大學で楔形文書資料蒐集を終え、一〇月二六日歸國。

○内井惣七助手は、一〇月二七日羽田發、シカゴのアンバサダーホテルで一九七六年度科學哲學大會に出席、ミシガン大學で科學哲學に關する研究を終え、十一月二日歸國。

○梅原郁助教授は、本年一月よりヨーロッパ各地および中近東で宋代史の研究を終え、十二月二日歸國。

○井上清教授は、十二月二日伊丹發、中國科學院で日本近・現代史に關する講義並びに資料蒐集を終え、五二年一月二五日歸國。

○第二次中國研究者訪中團として磯波護助教・秋山元秀・曾布川寬・森時彦・夫馬進助手は二月二七日伊丹發、西北・北京大學、中國科學院、上海・北京圖書館、革命遺跡等、中國の研究機關視察及び資料を蒐集し、一月一八日歸國。

○川勝義雄教授は、三月一八日伊丹發、復旦・西北・北京大學等で研究機關等視察を終え、四月一日歸國。

○林巳奈夫教授は、四月一〇日羽田發、大英・ギメ・リートベルク博物館、スエーデンの遠東美術館等で、中國漢時代考古遺物の研究を行ない、七月一日歸國豫定。

○熊倉功夫助手は、四月五日伊丹發、カルカッタ市内・ダージリン市内・カトマンズ等で茶業及び飲茶風俗調査を終え、同月二二日歸國。

○松井 健助手は、五月二〇日伊丹發、マニラ・パラウイ島・アパリ周邊等で社會人類學的調査を行ない、八月九日歸國豫定。

○本學研修員規程により、本研究所において研修する外國人研修員とその題目は次のとおりである。

等。

Michael William Corr (ワシントン大學生物學センター所員)

日本農業技術史の研究 指導教官 飯沼教授

期間 五一年六月～五一年九月  
Francesca Cavalli (サンパウロ大學教授)

日本美術史 指導教官 林屋教授

期間 五一年六月～五一年五月  
Jerry K. Dusebury

中江兆民の研究 指導教官 飛鳥井助教授

期間 五一年七月～五二年三月  
Jerry P. Dennerline (ボモナ大學助教)

明清時代政治社會史研究 指導教官 小野講師

期間 五一年七月～五二年六月  
Constance Johnson (ペンシルバニア大學院生)

宋代の任官制度について 指導教官 磯波助教授

期間 五一年八月～五二年二月  
Liliane Hell

日本人の精神的特徴の社會心理的考察 指導教官 會田教授

期間 五一年一〇月～五二年九月  
Laurence Komniz (ロンドン大學院生)

戰國時代の藝能 指導教官 林屋教授

期間 五一年一〇月～五二年九月  
James Reid (カリフォルニア大學院生)

日本の雅樂における高麗樂の分野に關する研究 指導教官 吉田教授

期間 五一年一〇月～五二年九月  
莊 伯和

日本歴代所藏の中國繪畫概觀

指導教官 日比野教授・梅原助教

期間 五一年一〇月～五二年九月

William W. Kelly (フランドランス大學院生)

現代日本における水利組織と村落構造との關係

指導教官 飯沼教授

期間 五一年一月～五二年七月

Robert P. Hynes (シンシールバニア大學院生)

宋代の地方貴族と社會的變動について

指導教官 磯波助教

期間 五一年一月～五二年一〇月

Souja Van Nostrand (ブリティッシュ・コロニヤ大學院生)

一休狂雲集の研究

指導教官 柳田教授

期間 五一年一月～五二年五月

Antonio Forte (ナポリ東洋大學助教)

唐代思想宗教の歴史的研究

指導教官 川勝教授

期間 五一年二月～五二年一〇月

Carl Befeldt (バークレイ大學院生)

正法眼藏

指導教官 柳田教授

期間 五一年二月～五二年二月

Peter Kornicki (オックフォード大學院生)

尾崎紅葉と江戸文學 指導教官 飛鳥井助教

期間 五一年一月～三年二月

Joshua Fogel (ロンドンビア大學院生)

内藤湖南の研究 指導教官 竹内教授

期間 五一年一月～五三年五月

Chester Wang (ワイスロンシン・マディソン大學教授)

王國維の研究 指導教官 竹内教授

期間 五二年一月～同年七月

Dennis Graflin (ハーバード大學院生)

東晉・南朝の政治史的・社會史的研究

指導教官 川勝教授

期間 五二年四月～五三年三月

Massimo Raveri (フィレンツェ大學助手)

社會人類學

指導教官 谷 助教

期間 五二年四月～五三年三月

Louise Cort (ハーバード大學フォッグ美術館學藝員)

日本近世における藝能と工藝

指導教官 林屋教授

期間 五二年四月～同年五月

陳 恒 嘉 (臺灣文藝作家協會)

魯迅の文學をつうじてみた中國の三〇年代の文學について

指導教官 竹内教授

期間 五二年四月～五三年三月

郭 麗 英

般若思想の研究 指導教官 柳田教授

期間 五二年五月～五三年四月

Howard J. Wechsler (イリノイ大學助教)

唐初の孔孟思想 指導教官 磯波助教

期間 五二年五月～同年六月

出版物

人文學報 第四三號 (紀要第七六冊)

五二年三月三十一日刊

東方學報 第四九冊 (紀要第七五冊)

五二年二月一五日刊

研究報告その他

東洋學文獻類目 一九七四

五一年九月一四日刊 (附屬東洋學文獻センター編)

調査報告 第三二號 都市政治家の行動と意見

三宅一郎・福島德壽郎・村松岐夫編

五二年三月一〇日刊

調査報告 第三三號 續・トレギエでの對話

桑原武夫編 五二年三月三十一日刊

元曲選釋 第四集

五二年三月三十一日刊

漢代の文物 林 巳奈夫著

五二年二月一〇日刊

ヨーロッパの社會と文化

會田雄次・梅棹忠夫編

五二年三月三十一日刊

紀要

人文學報 第四一號 (紀要第七四冊)

五一年十二月一〇日刊